JIGYOHAMA IKIMONO PROJECT

福岡市共働事業提案制度

事業の進捗状況資料

（平成 29 年度）

地行浜いきものプロジェクト事業実行委員会

一般社団法人 ふくおか FUN

福岡市環境局保健環境研究所 保健環境管理課・環境科学課

（福岡市共働事業提案制度 平成 29 年度採択事業）

ヤフオク！ドームそばにある地行浜。毎年たくさんの市民や観光客が訪れるこの海は
人工海浜であり，これまで市民が水中世界を知るきっかけがなく，生きものもあまり生息していないと
考えられていました。この地行浜を**「生きものが生まれ育つ豊かな場所にしたい！」**，
そういった想いから始まったのが**《地行浜いきものプロジェクト》**です。

1　共働のきっかけ・必要性

（1）共働事業のきっかけ・必要性

福岡市では，「博多湾環境保全計画」を策定して博多湾の豊かな自然環境の保全・再生を推進している。今後さらに環境の保全・創造に向け主体的に行動する市民を増やすためには，市民の環境保全や生物多様性に関する意識を高める必要がある。また，環境局保健環境研究所は，学習施設「保健環境学習室 まもるーむ福岡」を運営しているが，これまではパネル展示や単発的な座学等しか行えていなかった。そこで，当研究所が経験豊富で市民感覚を兼ね備えた NPO と共働することにより，地行浜に近いという立地を活かしながら，市民の環境保全や生物多様性に関する意識を高めることができる魅力的な体験学習等を実現したいと考え，共働事業提案制度に市のテーマを提示した。

（2）ＮＰＯがこの事業を提案した理由

一般社団法人ふくおか FUN は，主にダイバーが中心となり，“リアル”な福岡の水中世界を伝える活動を行っている。「博多湾は汚い」というイメージを持つ市民が非常に多くいることから，ふくおか FUN は，多様な主体が連携することで博多湾の生態系をより豊かにしたい，そして福岡市民にとって誇りに思えるような海にしていくための取り組みを精力的に行いたいという想いがあった。さらに，水中調査・撮影技術や，市民への環境啓発・体験型イベントの企画・運営のノウハウを共働事業に活かすことができると考え，本事業を提案した。

（3）市がこの事業に取り組む理由

ふくおか FUN の専門性の高い水中調査・撮影技術や環境啓発・体験型イベントの企画・運営ノウハウと，保健環境研究所の「まもるーむ福岡」や科学的な知見等，それぞれの特性を互いに提供し合うことで，人工海浜の現状の科学的分析，市民を巻き込みながら地行浜の生きものをより豊かにするための取り組みが実現でき，市民の環境保全や生物多様性に関する意識を高めることができると考えた。

2　事業目的

（1）環境の保全・創造に向け主体的に行動する市民を増やすため，『市民×行政×ＮＰＯ』が人工海浜である地行浜の生きものをより豊かにするための取り組みを通じて，市民の環境保全や生物多様性に関する意識を高める。

（2）保健環境学習室「まもるーむ福岡」を活用して，魅力的な体験学習や環境保全活動を行うＮＰＯ等の交流が行われる。

3　事業目標

（1）定点観測

年間延べ約 20 回の定点調査を実施し，地行浜の水中環境や生物の観測データを蓄積し，現状やその変化について市民にとって分かりやすく確認・理解できる形にする。

（2）取り組み検討会議

地行浜の生きものをより豊かにするための取り組みについて，あらゆる視点から意見が出るよう，環境保全活動を行うＮＰＯや学識経験者等，様々な立場・分野の人が定期的に集まり，具体的かつ実現可能な取り組み案を協議する。さらに，会議の場所に「まもるーむ福岡」を利用することで，ＮＰＯ等の交流の場としても機能させていく。

（3）体験型イベント

地行浜に生きものが定着するための取り組みの実践として，市民にとって魅力ある体験型イベントを企画し，多くの市民の参加を促す。イベントの実施により，市民の環境保全や生物多様性に関する意識を高める。

4　事業内容

（1）定点観測

地行浜の水中環境及び生息生物の調査を行う。スキューバダイビングにより，地行浜の水中写真・動画の撮影を行った。また，水や砂泥の採取を行い，保健環境研究所において水質の分析等を実施した。

① 回数：合計９回（平成 29 年８月末時点・毎月 1～2 回実施）

② 場所：地行浜・福岡市保健環境研究所

③ 調査者：潜水士２名，潜水連絡員１名，行政職員 1～2 名

④ 調査対象：生物（植物，底生動物，魚類,），地形，底質，水質

⑤ これまでの成果

- 地行浜には生きものはあまりいないと考えていたが，実際には多様な生きものが生息していた。
- 海底環境の違いに応じて多様な生きものが確認できた。ただし，生息場所が限られており，生息数は多くはなかった。また，春季と夏季では生きものの確認種の変動が大きかった。
- 地行浜では，砂質，自然石，泥，カキ殻など多様な海底環境がある。中央部は海岸から防波堤にかけて砂から泥へと変化し，東西両岸側では海岸は砂質であるが少し岸から離れると泥が多く，カキ殻などが堆積しているところもあった。
- 生きものの生息場として貴重なアマモ（海草）が小規模ではあるが生育しており，アマモの生育に適した環境もあることが判明した。
- 定点観測により，生きものが生息生育している場所の環境条件がわかりつつある。生息生育に適した環境を新たに増やすことができれば，生きものがより豊かになるのではないかと考えられる。

（2）取り組み検討会議

（1）の定点観測で得られたデータをもとに，研究者や環境活動を行うＮＰＯ等，様々な立場・分野の人が「どうすれば地行浜の生きものがより豊かになるか」について話し合い，具体的な手法を検討する。

① 回数：合計５回（平成 29 年８月末時点・月１回実施）

② 場所：保健環境学習室「まもるーむ福岡」

③ 参加者：九州大学名誉教授，NPO 法人 ふくおか湿地保全研究会，（特非）グリーンシティ福岡，（一財）九州環境管理協会，（公財）人材育成ゆふいん財団，福岡市海浜公園指定管理者

④ これまでの成果

・ NPO や学識経験者等，多様な主体が関わって実施することで毎回新たな発見があり，活発で前向きな会議が行えている。

・ 取り組み検討会議をきっかけに，参加いただいている NPO の活動内容について「まもるーむ福岡」で展示を行うこととなり，本事業を通じて NPO との連携が進んでいる。

・ 地行浜を管理する海浜公園指定管理者とも密に連携を取っており，海浜公園の魅力発信につながっている。

（3）体験型イベント

実行委員会及び取り組み検討会議で協議し，プロジェクト初年度である平成 29 年度は，まず地行浜を『知る』ためのイベントを企画することに決定した。プロダイバーの指導・安全管理のもと，シュノーケリングで地行浜の海の生きものを観察し，「まもるーむ福岡」で水中映像を使った学習を行った。

① イベント名：シュノーケリングで博多湾の生きものを見てみよう！

② 回数：計２回（7/1（土）・8/9（水））

③ 場所：保健環境学習室「まもるーむ福岡」及び地行浜の海

④ 対象：小学 4～6 年生（保護者同伴）

⑤ 参加者数：計 134 名（7/1（土）：22 名 と その家族 31 名，8/9（水）：38 名 と その家族 43 名）

⑥ 成果

・ シュノーケリングは，安全面の不安から市単独では開催の難しい内容であるが，綿密な協議と事前準備により信頼関係を構築し実現できた。

・ イベントの募集は，市の広報を活用することで定員の倍以上の応募を得ることができ，さらに市との共働事業であることから参加者の信頼も大きかった。

・ イベント参加者の約６割が「まもるーむ福岡」への初来館者であり，「まもるーむ福岡」の新たな顧客の開拓ができた。

・ イベントは両日とも取材があり，計３回のメディア露出（TNC の２番組，西日本新聞）により共働事業及び「まもるーむ福岡」の認知度アップに繋がった。

（4）その他　-　情報発信

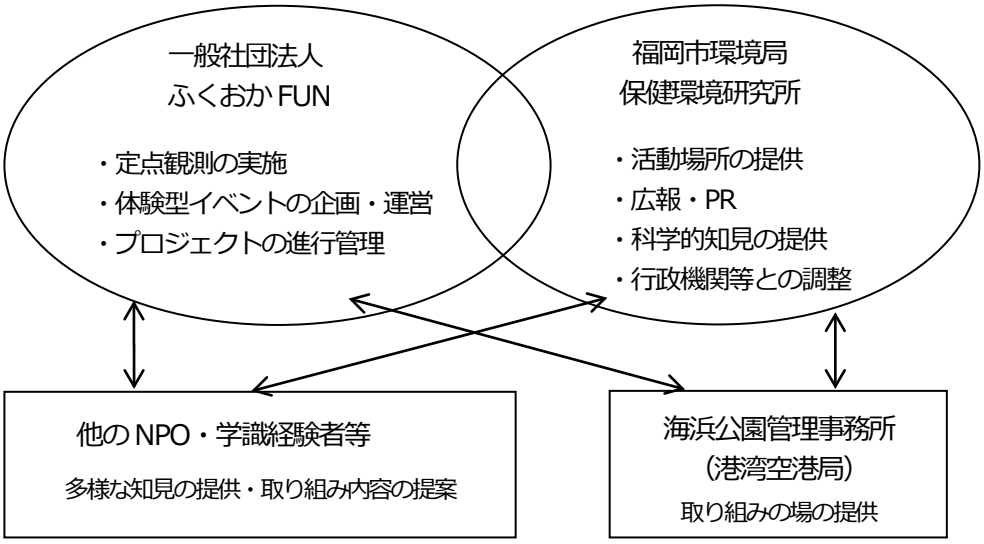
事業の進捗状況について，市民の方に広く発信するため，「まもるーむ福岡」に特設展示ブースを開設し，水中映像等を用いた情報発信を行っている。ブースを開設した６月 12 日から８月末時点で，約 4,400 名の方に観覧いただいた。また，マリンワールド海の中道の展示コーナーにおいても事業紹介を行っている。事業が進むにつれ発信できる情報も増えてくるため，今後は「まもるーむ福岡」の特設展示ブースの情報をさらに充実させたい。また，現時点では，インターネットを活用した情報発信があまり行えていない状況であるため，今後はホームページを立ち上げるなど，積極的に情報発信していく予定である。

5　NPO と市の役割分担

（1）それぞれの強み

ふくおか FAN の強み	福岡市の強み
・水中での写真・映像の撮影技術を持つ ・環境啓発活動や体験型イベントの企画運営のスキル・ノウハウがある ・レスキュースキルを持つダイバースタッフが多く，水中での安全管理・リスクマネジメントが徹底されている	・環境学習の場「まもるーむ福岡」を持つ ・市の広報ツール（市政だより・HP 等）がある ・イベント等に市民が信頼して参加できる，安心感がある ・環境分析等の科学的知見がある

（2）具体的な役割分担



6　担当者の声・市民の声

（1）市民の声

体験型イベント参加者へのアンケートの結果，下記の声をいただいた。

・ 思っていたよりもいろいろな生きものがいた。/魚，貝など知らないことや見たことがないものを見ることができて良い経験になった。/なかなか触れ合えない生きものを見ることができて嬉しかった。/ 魚を近くで見て，魚が好きになった。/ウミウシを見られて嬉しかった。（小学生）

・ 人工海浜の地行浜が思ったよりも濁っていなかったのに驚いた。（小学生）

・ 潜った時にビニール袋やパックがあったので，ゴミを捨てないようにしたい。/もっと海をキレイにするためにいろんな協力をしたい。/この海がとてもキレイになったら魚たちも喜ぶし私たちも嬉しい。私たちの努力が大切！毎日気を付けていきたい。（小学生）

・ とても海が好きになった。/また海に行きたいと思った。（小学生）

・ 住んでいる地域の海の現状を知ることができた（保護者）

・ 商業都市である福岡市の中心部にある湾のため，汚れているのは生活の上でやむを得ない反面，張本人である人間の手で澄んだ海を取り戻す努力をすることが大前提かと改めて考えなおした。（保護者）

・ 学校で教わることができない大切なことを教えてもらった（保護者）

・ 海の生きものを自分の目で見れるって素敵だと思った。その後の水中映像での説明は，このような機会はないのでとても良い経験になった。/最後に水中映像を見せてもらえて私も勉強になった。（保護者）

・ 大人向けのワークショップでは，先生にたくさんの興味深いお話を聞くことができ大変良かった。こちらも勉強になった。（保護者）
・ 水中映像を見て，意外にキレイだと思った。皆で掃除したりできると良いなと思った。（保護者）
・ 今までは打ち上げられたゴミの多さに驚いていたが，海の透明感を知り意外だった。市民の一人として美しい博多湾にしていく取り組みに協力したい。/近くで見て，海がきれいだったのでびっくりした。今後もイベント等参加しながら海を見守っていきたい。（保護者）
・ きれいな海になるよう市民全員の協力が必要，貴重な経験をさせてもらった。（保護者）
・ 人工海浜に棲み付く生きものはいないと思っていた。上からではわからない生態系がちゃんとできていたことに驚いた。人工海浜のイメージが変わったので，自然を増やしてあげたいと思った。どうやったら増えるか考えようと思う（保護者）
・ 魚や色々な生きものが意外にたくさんいるんだなと思った。/地行浜にはよく遊びに来るが，生きものがいて豊かな海だとわかった。（保護者）
・ ゴミも少なくきれいな海だと思った。/思ったよりも海がきれいなことに驚いた。（保護者）
・ 陸からもカニや魚や貝が見えてびっくりした。もっときれいになってほしいと思った。（保護者）
・ 人工海浜はなかなか良い場所だと思った。身近に海を感じることができた。（保護者）
・ 子供たちはこのような経験をすると海を汚す行動はしないと思う。（保護者）

また，下記のような声もあった。

・ あまり魚がいなかった。（小学生）
・ 思ったよりも海が濁っていてびっくりした。/海が少し汚い。（小学生）
・ 近くに住んでいるのに地行浜には全然来ておらず，こんなに汚れているとは驚いた。（保護者）
・ 海をきれいにするようがんばって。（小学生）

（2）担当者の声

① ふくおか FUN

・ 発足当初から非常に前向きに，楽しくプロジェクトが進められている。非営利団体と行政という全く異なる立場であることをお互いがしっかりと理解し尊重した上で，想いを一つにしてプロジェクトに向き合えていることが私達の一番の強みだと思う。
・ ダイバー目線で地行浜の水中世界を観察することや，共働事業に関わる様々な立場の皆さんの視点，体験型イベントの参加者の皆さんが感じること，その全てを大変新鮮に感じている。今後はこのプロジェクトで，「知る」「伝える」「できる」ことをさらにカタチにしていきたい。

② 福岡市

・ 共働して取り組むことで，市単独では開催が難しかった水中観察の体験講座を実施することができた。それぞれが持つ知識や技術に基づき対等な関係での話し合いができたことが，事業実施を通してお互いの信頼関係の構築や魅力ある体験講座の実施に繋がっている。
・ 共働により，市単独では出てこないアイデアが出たり，海や生きものに対する強い思いを共有できたり，委託事業とは異なる新しい形の事業が行えていると思う。さらに事業をステップアップさせるために，お互いの特性を活かし，想いを尊重し合いながら，引き続き取り組んでいきたい。
・ 博多湾の生態系を科学的に観測する技術は未だ確立されておらず，ダイバーによる映像撮影やサンプリング等を通して，低コストで的確な観測ができる技術開発に繋がると期待している。

7　３０年度への展開

（1）共働事業として事業を実施する必要性やその有効性

今年度はまず「地行浜を知る」ための取り組みを行っており，体験型イベントの参加者からも「市民の一人として美しい博多湾にしていく取り組みに協力したい。」というような意見をいただいているところである。これから，事業をさらに一歩進め，「地行浜の生きものをより豊かにする」取り組みを市民と共に行い，その取り組みを通じて市民の環境保全や生物多様性に関する意識を高めていく必要がある。

共働事業として本事業を行うことで「4 事業内容」に記載した成果が出ており，引き続き，それぞれの特性を活かした共働事業として事業を継続するべきと考える。

（2）３０年度の事業計画

①　事業計画（詳細については別紙「30 年度事業計画書」参照）

ア　取り組み検討事業（取り組み検討会議）

環境保全に関わる NPO，学識経験者，海浜公園指定管理者等，様々な立場・分野の方と一緒に，地行浜の生きものをより豊かにするための具体的な方策について検討を行う。また，具体的な方策についての試行結果の報告を受け，検証し，改善策の協議を行う。

イ　取り組み試行・検証事業（試行と定点調査等）

地行浜での定点調査の結果および取り組み検討会議での協議結果を踏まえ，地行浜の生きものをより豊かにするために有効と思われる取組みの試行・検証を行う。また，試行した取り組みの経過確認のため定点調査を継続し，結果を分析・検証するとともに，市民と一緒に取り組みを実践するための手法を検討する。

ウ　取り組み実践事業（市民参加の体験講座）

地行浜の生きものを豊かにするための具体的な取組みを市民・NPO・行政が一体となって実践する。市民自らが参加し，考え，実践することで意識の向上につなげる。

エ　プロジェクトプロモーション事業（情報発信の強化）

博多湾を大切にしてもらうためには，博多湾の魅力を知ってもらう必要がある。活動を通じて蓄積した地行浜の魅力的な生きものの水中映像を専門ウェブサイトと「まもるーむ福岡」の特設ブースを使って動画を中心に発信する。同時にプロジェクトの目的とこれまでの展開を市民へ報告する場とし，プロジェクトの認知度向上を図る。

②　予算額（詳細については別紙「30 年度収支予算書」参照）

総事業費：合計 3,746 千円

（内訳）

ア 事業実施経費：2,793 千円

・取り組み検討事業（取り組み検討会議）：373 千円

・取り組み試行・検証事業（試行と定点調査等）：825 千円

・取り組み実践事業（市民参加の体験講座）：680 千円

・プロジェクトプロモーション事業（情報発信の強化）：915 千円

イ 管理運営経費：953 千円